

5.4.4. 維持管理段階での BIM/CIM モデル活用例

(1) 統合モデルを活用した日常点検ルートマップ

ダムは規模が大きく、様々な施設からなる複合構造物である。

作成した各種BIM/CIMモデル（地形モデル、地質・土質モデル、構造物モデル等）を重ね合わせた統合モデル上で、各施設の位置関係や形状を模擬的に確認することで、担当者変更時の引継ぎに活用できるほか、点検、現地調査の移動ルートの検討、立入困難な場所の確認の効率化が期待できる。

統合モデル上での点検ルートマップと全方位カメラによるバーチャルツアーの例を以下に示す。

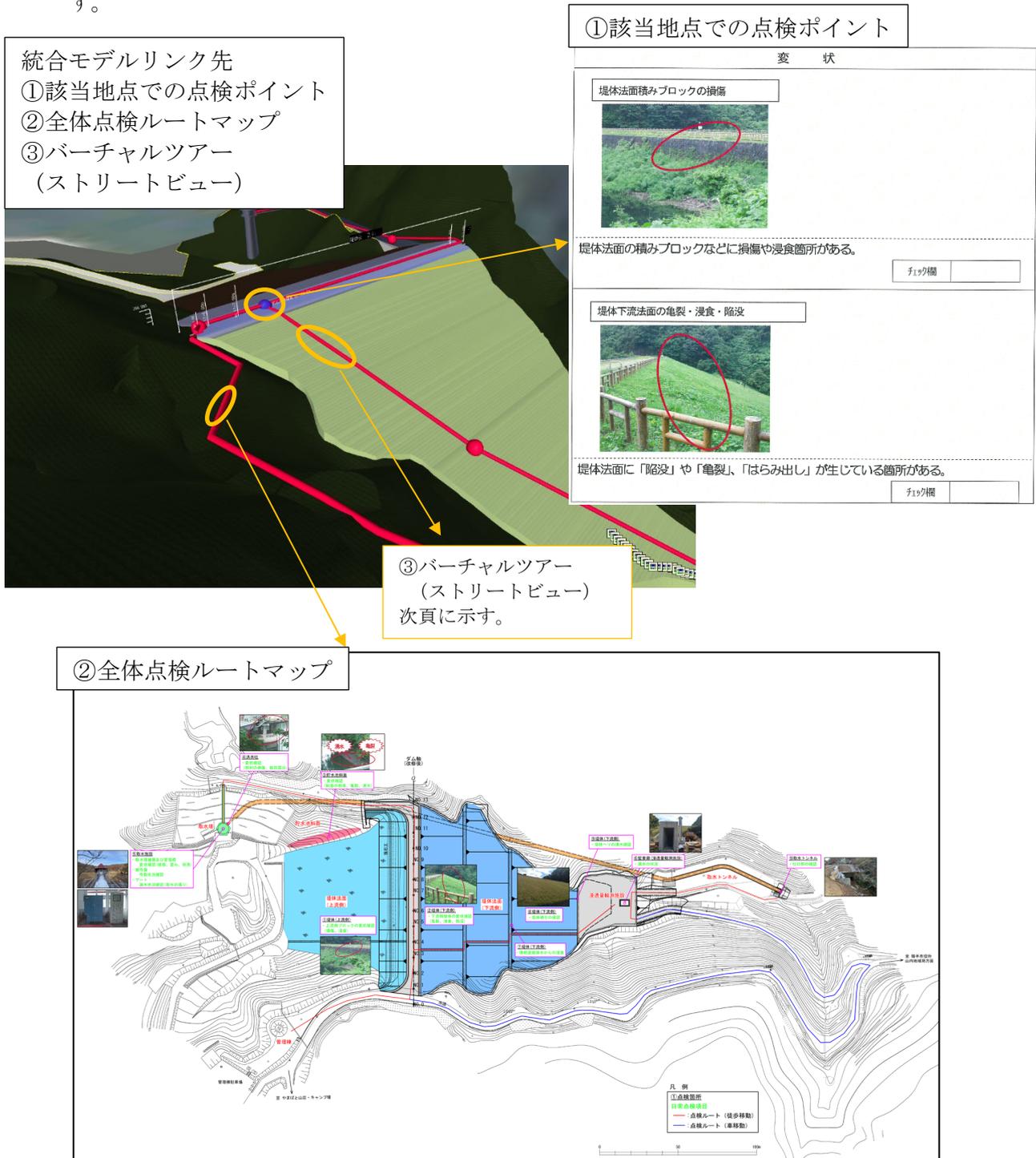


図5.11 統合モデル上の点検ルートマップの例

③バーチャルツアー（ストリートビュー）



図 5.12 全方位カメラによるバーチャルツアーの例

(2) 蓄積したデータの3次元表示例

日常管理で蓄積したデータを数値で示すだけでなく、グラフによる傾向管理が重要である。変位等については横断方向と縦断方向の評価が必要であることから、変位量や方向を3次元表示するとともに様々な情報をまとめて表示することで、状態把握の効率化が期待できる。

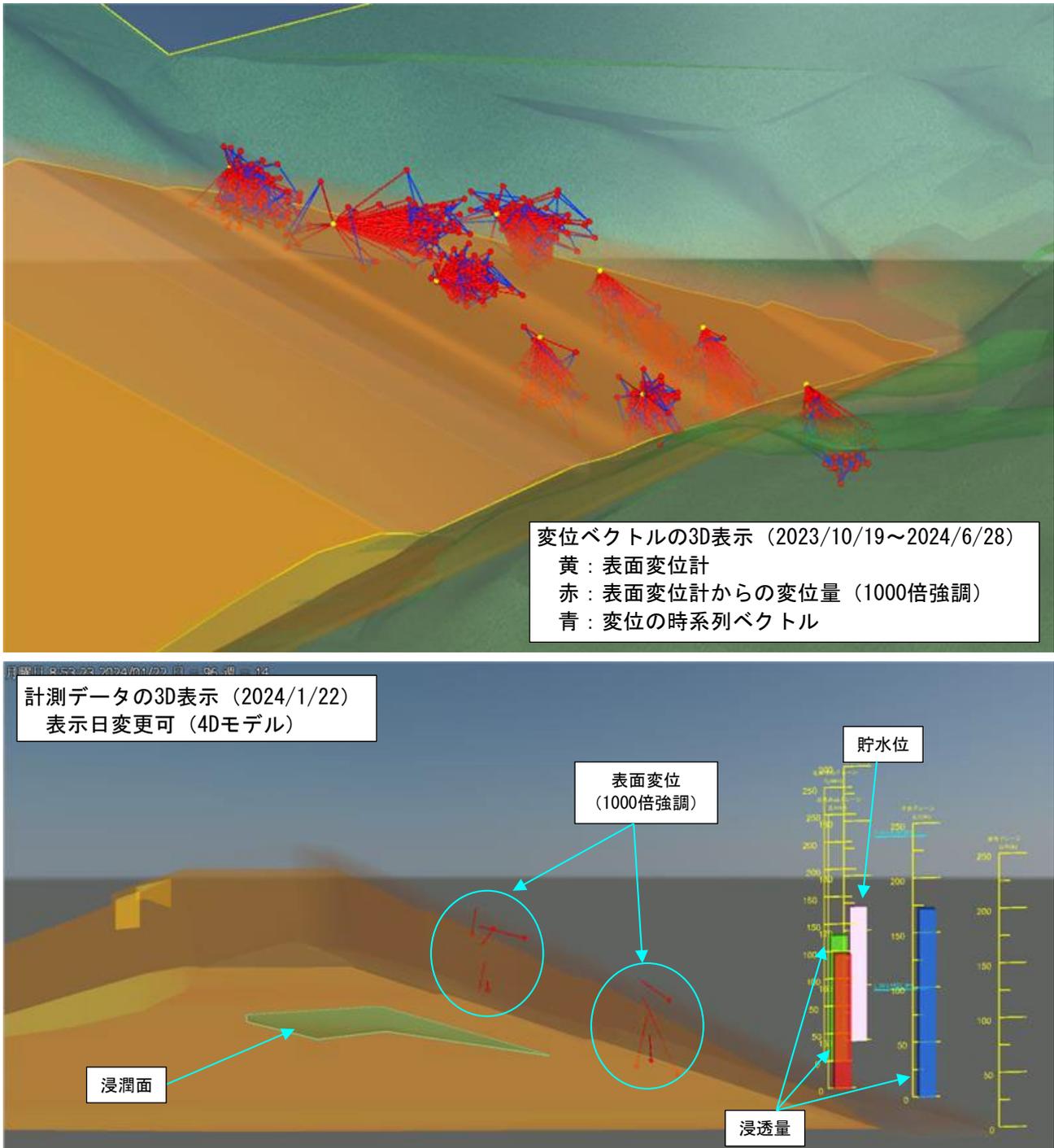


図 5.13 蓄積したデータの表示例